

実践情報社会論I (デジタル時代の著作権とオープン化)

野口祐子
渡辺智暁
増田雅史

第13回 講義

「まとめ：オープン化の展望と評価」

2011.6.3

担当：渡辺

(*本資料のライセンスについては、最後のページをご覧ください。)

メニュー

- オープン化の現状（どうなっていくのか）
- オープン化の評価（よいことなのか）
- そもそもオープン化とは何か？
- なぜ今オープン化なのか？

無料提供と売り上げ

- アニメを動画サイトで無料提供すると、DVDの売り上げは伸びる
- 音楽CDの売り上げはファイル交換による流通によって影響されない。
- (テレビドラマも行けるのでは?)
- (映画はダメなのでは?)

? 全ての作品が当たり前のように無料提供されても、売り上げは伸びるのか? それとも打ち消されるのか?

※オープン化 = 無料公開または複製自由

オープンコンテンツとの競争

- ・権利処理が煩雑なので、フリーな音楽やキャラクターが人気に
- ・コラボレーション/リミックスを通じて生み出される音楽の市場も成長しつつある
- ・無料提供されているにも関わらずCDは売れる。- 熱心なファンが形成される、ライブの価値が高まる、など。
- ・自由に複製・翻案できることは、ファン層形成にプラスにはたらく。

(オープン化 = 複製・翻案共自由)

小まとめ

- ・聴くための音楽、使うための音楽、どちらもオープン化に合理性はあるのではないか？
- ・旧来の事業戦略は権利を守りすぎているのではないか？
- ・ドラマなどの動画についても言えるのではないか。
- ・情報財は、購入前に消費者が「得られる効用」を予測できる度合いが少ないこともあり、オープン化は一般的に社会にとってよい傾向でもあるだろう。

新聞業界は苦戦中 (1)

- 元々読者減の傾向があった。広告収入はネットにとられつつある。(この辺りはテレビ、雑誌とも共通の状況か。)
- 無料提供はすでに実現している。
- 過当競争でそこからの撤退は難しいが、広告収入では従来型のオペレーションは支えられない。
- カスタマーエクスペリエンス、デバイス活用などを通じたブレークスルーを模索中。

新聞業界は苦戦中 (2)

- 競争相手は必ずしもブログではない？
他の新聞社などのニュースサイトが主。
(この点、木野瀬説と浜村説はやや対照的か)
- コラムや解説記事
- 事件・事故「現場」からの報道
- 地道な調査報道、地道な長期報道

レコード業界でも新しい試み

- 希少性を失った「複製」「流通」に基盤をおかない事業モデルの模索
- 業界は生き延びるが事業者の顔ぶれは代わる、というパターンが待っているのかも？

そもそもオープン化とは？

自分のコントロール下にある部分を共有・委譲し、他人の影響に身をさらすこと。

- 独占権としての著作権 v 許諾
- 自社完結・特定少数社完結型の事業展開 v 不特定多数を巻き込む展開
- 制作、プロモーション、流通、様々な局面に見られるもの。

権利者の悩み

- オープン化が成功するかどうか、予測が立てづらい
- むしろ損失を出すのではないか
- (凝り固まった思考回路のせいで合理的計算ができない、という問題も)
- どこにどのようなライバルがいるかがわからない。リスク回避のためには自社・自分・内輪のコントロールを維持する方が望ましい。

制度的な問題

- 法改正をプッシュする力は、「大きな利害」を持つ「特定少数」のまとめり=業界団体が強く、「小さな利害」を持つ「大多数」の利用者が弱い。
- 日本には著作権分野で活動できる公益・市民系のロビー団体が乏しい。
- 権利者保護よりの法改正は行いやすく、利用者保護よりの法改正は行いにくい。

なぜ今オープン化なのか？

デジタル技術、高速ネットワークなどによる作品
情報処理・通信コストの低減

特定少数や自社内で事業を組み立てるコストと、
不特定・多数を巻き込むコストとを比べると、
後者のコストが特に下がった。

実施コストが下がったオープン戦略の中には、
有効なものがあった。(そうでないものももち
ろんある)

考察

- ・オープン化は進めれば進めるほど効果が期待できるというわけではない。
- ・著作物の使用形態に応じてオープン化の効果は異なる。繰り返し消費・シリーズもの・デバイスシフトなどのニーズがあるものは相性がよい。一回の消費でニーズが満たされるものは相性が悪そう。

考察

- ・ネット系のビジネスは、従来よりも安い価格で情報・コンテンツ・サービスを提供する傾向にあり、従来のコスト体質のままでは、事業者は存続が危ういかも知れない。

この発表資料を2種類のライセンスで提供し、利用者が選べるようにするために、利用許諾に関する注意書きを以下に記します。

- ・ この発表資料は、CC-BY 2.1 JP (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) でライセンスされています。
- ・ この発表資料は、CC-BY-SA 2.1 JP (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.1/jp/>) でライセンスされています。

参考までに、本作品のタイトルは「まとめ:オープン化の展望と評価」で、原作者は渡辺智暁です。本作品に係る著作権表示はなく、許諾者が本作品に添付するよう指定したURI也没有ありません。